

プロジェクト名：花押・筆跡分類による関東公方関係文書の史料学的研究

～足利持氏・関東管領・鎌倉府奉行人発給文書を中心に～

プロジェクト代表者：清水 亮（教育学部・准教授）

## 1, 問題の所在

現在の東国中世文書研究は、特定の組織体に伝来した文書群の総合的研究と、特定の個人が発給した文書の総合的研究という二つの視角・手法によって新たな段階を迎えつつある。この二つの研究視角は互いに補い合うものであり、筆跡を含めた文書一点一点の厳密な検討など研究手法にも重なる点がある。この二つの研究視角・手法を踏まえて、今後の東国中世文書研究を進めていく必要がある。

そこで、本研究では、「東日本の中世史料の特質」を把握するための第一歩として、室町幕府の攻撃を受けて鎌倉府の一時的滅亡を招いた第4代鎌倉公方（関東公方）足利持氏（1398—1439）という人物の発給文書について、文書の内容のみでなく、様式・花押形・筆跡・料紙などの外形情報を含めた総合的検討を行う。そして、鎌倉公方を補佐した関東管領上杉氏や鎌倉府奉行人（官僚）の発給文書を収集し、鎌倉府関係文書を総合的に考察するための基盤を形成する。

なお、本研究は、平成22年度本学総合研究機構プロジェクト研究（若手展開研究—①カテゴリA）「関東公方発給文書の史料学的研究～足利持氏発給文書を中心に～」（代表者：清水亮）、平成23年度本学総合研究機構プロジェクト研究（若手展開研究—①カテゴリA）「花押・筆跡分析による関東公方発給文書の史料学的研究～足利持氏発給文書を中心に～」（代表者：清水亮）を踏まえ、発展させたものである。

## 2, 研究の方法と成果

### 1) 足利持氏発給文書の分析とデータ化

#### i) 花押の分析

平成22・23年度の研究と同様、本年度も、東京大学史料編纂所架蔵の写真帳・影写本、自治体史や博物館図録を検索して足利持氏発給文書の画像データを検索・入手することに努めた。そして、足利持氏の花押形の検討を進めた。具体的には、持氏の花押を構成するタテヨコの線の角度・長さ・バランスを分析した。この作業を積み重ねることによって、平成23年度に提示した持氏花押の時期区分の判断材料を補強した。

#### ii) 筆跡の分析

足利持氏の発給文書の右筆<sup>ゆうひつ</sup>（執筆者）とその筆跡を検出・分類する作業を進めた。現在、足利持氏発給文書の右筆のうち、花押を確認できる人物を2名（以下、右筆A・Bと呼ぶ）見いだしている。そのうち、1名（以下右筆Aと呼ぶ）については、彼が花押を据えた足利持氏発給文書を分析の基準として、これまで収集した持氏発給文書の画像全ての筆跡を分析することで、その筆跡を明らかにすることを試みた。その結果、右筆Bは、草書体・楷書体など様々な字の書き方を行っていたことが明らかになった。

この作業を通じて、足利持氏の右筆は、2名もしくは3名存在していたと一応考えるに至った。とはいえ、この筆跡分類を通じて、以下の問題を認識することになった。

- ① 足利持氏発給文書に花押を据えた右筆A・B両者の筆跡には、非常に似通ったものがある。
- ② 足利持氏に仕え、鎌倉府の文書作成という共通の業務を担う右筆集団は、非常によく似た書体を体得していた可能性がある。
- ③ 右筆集団を構成する奉行人たちが一族・近親であり、それゆえ、非常によく似た書体を体得していた

可能性がある。

今後は上記の問題点を踏まえた上で、とくに一字一字の運筆の特徴を捉えることによって、足利持氏の発給文書の筆跡分類と右筆検出を進めていきたい。

### iii) データの集約

いままで収集してきた足利持氏発給文書 212 通について、これまでの検討結果を加味したデータベースを Excel で作成した。さらに、そのうち、画像を収集しえた約 140 通の足利持氏発給文書を PDF データ化することで、研究成果の保存・移動・検討の確実化・効率化を図った。

## 2) 関東管領上杉氏発給文書・鎌倉府奉行人発給文書・上杉氏奉行人発給文書の収集

これまでの調査・研究によって、鎌倉公方発給文書と関東管領上杉氏発給文書・鎌倉府奉行人発給文書のなかに共通した筆跡があることを認識していた。鎌倉公方発給文書と関東管領上杉氏発給文書双方を作成する人物としては、鎌倉府奉行人（右筆）が候補にあげられる。鎌倉府の意志を発動する文書（鎌倉公方御教書・関東管領奉書・鎌倉府奉行人奉書）の作成過程の解明は、鎌倉府の意志決定の過程を明らかにすることにつながる。

このような見通しのもと、『神奈川県史』『南北朝遺文 関東編』などの通覧によって、関東管領上杉氏発給文書・鎌倉府奉行人奉書・上杉氏奉行人発給文書を検索し、カード化した。上杉氏奉行人発給文書をデータに加えた理由は、15 世紀前半に入ると鎌倉府奉行人と上杉氏奉行人を兼ねる者がいると予想されるからである。

今後は、これらの史料カードを基礎として、関東管領上杉氏発給文書・鎌倉府奉行人発給文書・上杉氏奉行人発給文書についても画像情報・原本調査を蓄積し、それぞれの外形情報を総合的に明らかにしていきたい。そして、それらの検討を踏まえて、鎌倉府の意志決定・文書発給の実態を、文書のモノ情報自体から明らかにすることをめざしていきたい。